

### Ⅲ 神代の杜

#### 第1 総括

##### 1 地域密着型施設としての取組と安定した施設運営

神代の杜は、調布市内で唯一の地域密着型特養として独自の取り組みを行うとともに、本体施設である調布八雲苑のサテライト施設として、ただ単にバックアップの下で運営するのではなく、緊密な連携を取りつつ、単独施設として安定した経営基盤を築けるよう努力することが求められる。

また、地域密着型施設は、調布市に事業者としての指定を受けていることから、事業計画書、事業報告書や運営推進会議議事録に基づき、適時、施設運営について報告し、指導・助言を受けている。

地域密着型特養としての地域貢献の取り組みとしては、地域団体や老人クラブに地域開放スペースを貸し出して各種活動を実施している。その活動がきっかけで入居者と再会し面会につながることもあった。

北ノ台まちづくりネットワーク（地区協議会）の運営委員としての参画していることで、各種団体のボランティア活動も多岐に渡り入居者が地域と関わる機会が増えている。

経営面においては、前年度の収支差額率が、マイナス6.9%で資金収支は、582万円となり、開設から最大の赤字であった。

本年度の特養の利用率については、年間で96.0%となり、目標よりも1.0ポイント低かった。その結果、本年度の収支差額率は、マイナス3.0%で資金収支は、150万円の赤字となった。

赤字となった大きな要因としては、前年度よりも特養の入院日数が増えたことによる。入院日数は、前年度の314日から318日となり、開設後、最も多い入院日数となったことで、空床状態が長く続き、介護報酬の減少を招いた。

しかし、退去者数は、前年度の10人で本年度が4人となり、退去から新規入居までの空床日数が減少した。

退去者4人のうち、2人は看取りを行い、入居者本人とその家族にとって、最期の場の選択肢が増えることとなった。

ショートステイの利用率については、前年度から3.6ポイント低下したが、収入は大きく減少していない。ただ、ショートステイの新規利用については、前年度が11人であったが、本年度は6人となり減少傾向となっている。

喀痰吸引研修については、介護職員1人が参加し、神代の杜介護職員4人が喀痰吸引ができるようになった。今後も、研修参加して喀痰吸引が必要な入居者に対し、即時対応ができる体制としたい。

## 第2 経営実績

### 1 目標値に対する実績

目標値に対する実績は、次のとおりである。

(単位：%)

事業名	目標値	平成30年度 実績	平成29年度 実績
介護老人福祉施設 (特別養護老人ホーム) 利用率	97.0	96.0	94.4
短期入所生活介護 (ショートステイ) 利用率	80.0	54.4	58.0

## 第3 事業報告

### 1 重点事項への取組

#### (1) 地域密着型特養としての役割と施設機能の強化

入居者ケアに関わることは、各ユニットで実施しているユニット会議で協議し職員に周知するとともに、アセスメントシートである24時間シートの更新を行った。

また、職種別会議や各種委員会で決定したことを適宜適切に周知したことで、職員全体で共有することができた。

施設長及びユニットリーダー3人が参加するリーダー会議の開催について、本年度上期は適時開催できた。しかし、下期から介護職員の欠員状況が続いたことでユニットリーダーの夜勤回数が増加しリーダー会議の開催が減少したことで、リーダー3人のうち主任を主とした検討会を実施して課題等への対応を行った。

#### (2) 健全な経営基盤の構築

独立行政法人福祉医療機構の「平成29年度特別養護老人ホームの経営状況について」において、定員29人以下の特養の赤字比率が44.0%となり、利用率が95.5%以下で赤字となることが公表された。

神代の杜は、目標利用率に1.0ポイント届かず、96.0%となり、3年続けて赤字収支となった。

目標利用率を下回った要因は、入院日数が318日となり、前年度の314日から、4日増加した。特に、下期の入院日数が234日となったことが大きな要因である。

また、夜勤のできる有期雇用職員の退職に関わる職員補充を正規職員で行い、人件費が高騰したことも赤字収支となった要因である。

### (3) 安定した給食調理業務の継続

平成30年2月に委託業者の撤退で給食調理業務を直営化し、その後、直接雇用の調理員採用を円滑に補充できたことで、安心して安全な食事が提供できた。

また、神代の杜には、栄養士が常駐していないことから、調理師からの意見集約を事務職員が行い、課題等に即時対応できた。

### (4) 地域密着型施設としての地域貢献について

地域密着型サービスに義務付けられている運営推進会議の開催は、概ね2か月に1回開催し、委員からの意見を参考にして事業運営を行った。運営推進会議委員全員が深大寺町に在住もしくは、就業しているため、住民の生活課題や福祉課題の把握ができています。その情報を共有し、地域住民のつながりの一助となれるよう施設機能を提供した。

また、北ノ台まちづくりネットワーク安心・安全グループの運営委員として、各種事業への協力で地域貢献できた。

## 2 実績報告

### (1) 特養（介護老人福祉施設。以下同じ）利用者食数

月	朝食	昼食	夕食	月	朝食	昼食	夕食
4	820	823	824	10	822	822	824
5	875	876	876	11	802	801	804
6	870	870	870	12	860	857	861
7	899	899	899	1	864	863	864
8	876	875	875	2	762	763	764
9	824	823	823	3	875	877	877
				計	10,149	10,149	10,161

### (2) ショート（短期入所生活介護。以下同じ）利用者食数

月	朝食	昼食	夕食	月	朝食	昼食	夕食
4	42	49	43	10	44	53	42
5	52	62	54	11	36	41	36
6	41	47	41	12	32	36	32
7	41	46	39	1	33	36	34
8	45	49	45	2	42	45	42
9	39	46	42	3	45	52	44
				計	492	562	494

(3) 行事食献立一覧（特＝特養、シ＝ショート）

月日	行事名	課名	献立内容
4月4日	リクエストメニュー	特・シ	山菜ご飯、魚の味噌漬け焼、薩摩芋煮、ごま酢和え
12日	リクエストメニュー	特・シ	江戸散らし、筑前煮、うぐいす豆、澄まし汁
18日	もりカフェ	特	プリンアラモード、飲み物4種
5月5日	子どもの日	特・シ	いなり寿司、やわらかチキン、若竹煮、そうめん汁
23日	もりカフェ	特・シ	苺ショート、モンブラン等、飲み物4種
6月13日	リクエストメニュー	特・シ	あさりご飯、豆腐のくず煮、きんぴらごぼう他
27日	もりカフェ	特	チーズケーキ、抹茶ケーキ等、飲み物4種
28日	おやつバイキング	特・シ	ケーキ3種、水ようかん、葛まんじゅう
7月7日	七夕	特・シ	七夕そうめん、天ぷら、卵豆腐、みかん間
20日	土用の丑	特・シ	うな井、京風揚げ煮、柚子醤油和え、吉野汁
25日	もりカフェ	特	白桃ゼリー、飲み物4種
8月18日	リクエストメニュー	特・シ	夏野菜カレー、キャベツのかに巻き、ゼリー
23日	もりカフェ	特・シ	ミルクレープ、栗のロールケーキ、飲み物4種
9月16日	敬老祝い	特・シ	握り寿司、お造り、お浸し、澄まし汁
29日	リクエストメニュー	特・シ	コロッケ、れんこんの炒め煮、ゆず醤油和え
27日	もりカフェ	特	モンブラン、かぼちゃプリン等、飲み物4種
10月1日	リクエストメニュー	特・シ	栗ご飯、豆腐の五目あんかけ、小松菜海苔和え他
19日	リクエストメニュー	特・シ	さつま芋ご飯、肉豆腐、人参のたらこ炒め、ナムル
24日	もりカフェ	特	モンブラン、カボチャのスフレ、飲み物4種
11月28日	もりカフェ	特・シ	チョコレートケーキ、チーズケーキ等、飲み物4種
12月25日	クリスマスメニュー	特・シ	ピラフ、チキンナゲット、サラダ、コーンスープ
26日	もりカフェ	特	チーズケーキ、ショートケーキ等、飲み物4種
31日	年越し	特・シ	年越しそば、天ぷら、蕪の酢の物、みかん
1月1日	元旦	特・シ	赤飯、おせち料理、雑煮、5点盛り、生菓子、甘酒
7日	七草	特・シ	七草粥、えびしゅうまい、豆腐のくず煮、漬物
23日	もりカフェ	特	プリンアラモード、ショートケーキ等、飲み物4種
25日	リクエストメニュー	特・シ	たぬきうどん、レモン煮、白和え、みかん
2月3日	節分	特・シ	散らし寿司、大豆とひじきの煮物、鯛つみれ汁他
27日	もりカフェ	特・シ	ダブルフロマージュ、飲み物4種
3月3日	ひな祭り	特・シ	桜寿司、鱈の菜種焼き、すまし汁、果物
27日	もりカフェ	特	モンブラン、プリンアラモード等、飲み物4種

#### (4) 研修体系

体系別の研修状況は、次のとおりである。

なお、内容欄の数字は、「(5) 研修の状況」の「No.」を表している。

体系	内 容	回数	
一般研修	新任職員研修		
	現任職員研修	1、2、5、8、9	5
	副主任研修		
	主任研修	4	1
	課長研修		
	施設長研修	6	1
専門研修	看護師研修		
	栄養士研修		
	ユニットリーダー研修		1
	介護職員研修	10	1
	機能訓練指導員研修		
	介護支援専門員研修	3	1
	生活相談員研修		
	事務職研修	7	1

#### (5) 研修の状況

施設外研修の参加状況は、次のとおりである。

No.	月 日	内 容	主 催	人数	延べ
1	6/24～7/26	介護職員等によるたんの吸引等の実施のための研修	公益財団法人東京都福祉保健財団	1	9
2	7/17	東京都個別ケア研修	日本ユニットケア推進センター	1	1
3	8/3	調布市認定調査員新規研修	調布市	1	1
4	8/22	高齢者権利擁護研修	公益財団法人東京都福祉保健財団	1	1
5	10/3	メンタルヘルス研修	ソウェルクラブ	1	1
6	10/16	感染症対策指導者養成研修	東京都福祉保健局	1	1
7	2/20	働き方改革関連法に関する説明会	厚生労働省	1	1
8	2/23	東京防災救急協会講習会	公益法人東京防災救急協会	1	1
9	2/25	感情マネジメント研修	東京都社会福祉協議会	1	1
10	3/5	ユニットケア研修フォーラム2019	日本ユニットケア推進センター	1	1

研修参加人数合計10人、延べ参加人数合計18人

(6) ボランティア等の状況

本年度も引き続き、調布市社会福祉協議会広報誌にシート交換、庭掃除のボランティア募集を定期的に行ったが、新規で活動したボランティアはいなかった。しかし、本年度から琴演奏やジャズ演奏のボランティアが増加した。

(単位：人)

活動団体・内容等		人数	延べ
全般・諸活動	ピアノ・フルート演奏	2	6
	歌・ピアノ弾き語り	1	13
	大正琴	10	10
	琴演奏	4	48
	フラダンス	10	20
	輪投げ	8	16
	ジャズ演奏	1	3
美化	草取り、樹木剪定、菜園	9	48
	洗車	3	3
	シート交換	2	66
合計		43	233

(7) 年齢状況（特別養護老人ホーム・定員29名）

入居者の平均年齢は、89.1歳であり、前年度と比較して0.5歳低下した。

平成31年3月31日現在（単位：人）

No.	年齢別	男	女	計	構成比 (%)
1	65歳未満	0	0	0	0
2	65～70歳未満	0	0	0	0
3	70～75歳未満	0	0	0	0
4	75～80歳未満	0	2	2	6.9
5	80～85歳未満	1	3	4	13.8
6	85～90歳未満	3	8	11	37.9
7	90～95歳未満	0	6	6	20.7
8	95～100歳未満	0	4	4	13.8
9	100歳以上	0	2	2	6.9
合計		4	25	29	100.0
最高年齢（歳）		87	101	—	—
最低年齢（歳）		84	79	—	—
平均年齢（歳）		85.8	89.7	89.1	—

(8) 在籍期間（特別養護老人ホーム）

本年度の入居者は、4人となっている。また、9人が開設当初の入居者である。

平成31年3月31日現在（単位：人）

No.	期間	男	女	計	構成比 (%)
1	1年未満	1	5	6	20.7
2	1年以上～2年未満	2	7	9	31.0
3	2年～3年未満	1	2	3	10.3
4	3年～4年未満	0	0	0	0
5	4年～5年未満	0	1	1	3.5
6	5年～6年未満	0	1	1	3.5
7	6年以上	0	9	9	31.0
合計		4	25	29	100.0

(9) 退去状況内訳

前年度の退去者は、10人であったが、本年度の退去者は、4人であり、その内容は下記のとおりである。

平成30年4月1日～平成31年3月31日

No.	性別	年齢	退去月	退去理由	在籍期間	要介護度
1	女	104	5月	入院先で死亡	2年10か月	5
2	女	90	10月	入院先で死亡	6年0か月	5
3	女	98	1月	施設内で永眠	6年4か月	5
4	女	89	2月	施設内で永眠	6年1か月	5
平均		95.3	—	—	5年3か月	5

(10) 月別要介護度分布表（特別養護老人ホーム）

前年度の平均介護度は4.0であったが、本年度は0.1ポイント低下し、3.9となった。

（単位：人）

月	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	平均介護度
4	0	1	7	13	7	3.9
5	0	1	8	14	7	3.9
6	0	1	8	14	6	3.9
7	0	1	8	14	6	3.9
8	0	1	8	14	6	3.9
9	0	0	9	14	6	3.9
10	0	0	10	14	6	3.9
11	0	0	9	15	5	3.9
12	0	0	9	15	5	3.9

1	0	0	9	14	6	3.9
2	0	0	10	15	5	3.8
3	0	0	10	15	4	3.8
構成比 (%)	0	1.4	30.0	48.9	19.7	100

(11) 月別利用実績（特別養護老人ホーム）

目標利用率を1.0ポイント下回り、3年続けて目標達成できなかった。目標以下となった原因は、年間での入院日数が、322日で前年度よりも8日多い状況となったためである。

(単位：日)

月	延べ利用日数	延べ利用可能日数	利用率 (%)
4	824	870	94.7
5	876	899	97.4
6	870	870	100.0
7	899	899	100.0
8	876	899	97.4
9	824	870	94.7
10	823	899	91.5
11	800	870	92.0
12	862	899	95.9
1	867	899	96.4
2	766	812	94.3
3	877	899	97.6
合計	10,164	10,585	—
平均	847	882	96.0

(12) 短期入所生活介護（ショートステイ・定員3名） 月別利用実績

利用率については、前年度と比較して3.5ポイント低下した。低下した原因は、継続利用していた利用者が老人保健施設や有料ホームへの入所で終結となったことによる。

また、新規利用についても、前年度11人であったが、本年度5人となったことで利用率が低下した。

月	利用実人数 (人)	利用延人数 (人)	利用日数 (日)	稼働日数 (日)	毎月の利用率 (%)
4	8	9	52	90	57.8
5	10	12	69	93	68.8
6	8	12	51	90	56.7
7	6	10	49	93	52.7
8	7	9	53	93	57.0
9	8	9	48	90	53.3
10	9	13	54	93	58.1
11	7	8	44	90	48.9
12	6	6	38	93	40.9

1	6	7	40	93	43.0
2	7	9	50	84	59.5
3	9	10	53	93	57.0
合計	91	114	596	1,095	—
平均	7.6	9.5	49.7	91.3	54.5

(13) 短期入所生活介護（ショートステイ） 月別要介護度分布表

本年度の介護度5の比率は、前年度と比較して17ポイント上昇した。

また、介護度3の比率は、前年度から10.1ポイント低下した。

(単位：人) 空床ショート含む

月	要支援 1	要支援 2	介護度 1	介護度 2	介護度 3	介護度 4	介護度 5	合 計
4	0	0	13	14	0	21	4	52
5	2	0	8	14	8	14	18	64
6	0	0	8	14	3	14	12	51
7	0	0	9	14	0	13	13	49
8	0	0	16	14	7	6	10	53
9	0	0	8	14	2	14	10	48
10	0	0	11	14	10	9	10	54
11	0	0	14	14	0	11	5	44
12	0	0	8	14	8	8	0	38
1	0	0	15	14	0	4	7	40
2	0	0	19	14	0	9	8	50
3	0	0	20	13	3	10	7	53
合計	2	0	149	167	41	133	104	596
比率(%)	0.3	0	25.0	28.0	6.9	22.3	17.5	100

(14) 運営推進会議の開催について

ア 神代の杜は地域密着型サービスのため、厚生労働省令で運営推進会議の設置が義務付けられている。これは、地域との連携や施設の適切な運営を実現し、関係者からの要望、助言等を聞く機会を保障するため設置しているものである。概ね2か月に1回の開催が求められ、平成30年度の開催状況は、下記のとおりである。

	開催日	議 題
第1回	4月26日(木)	・平成30年度神代の杜事業計画について ・3月～4月の運営状況について
第2回	6月21日(木)	・5月～6月の運営状況について
第3回	8月23日(木)	・7月～8月の運営状況について
第4回	11月8日(木)	・9月～10月の運営状況について
第5回	12月27日(木)	・11月～12月の運営状況について
第6回	2月28日(木)	・1月～2月の運営状況について

イ 運営推進会議の構成員については、下表のとおりである。 (敬称略)

氏名	選任区分	任期
矢田部 弘行	地域住民代表	平成30年9月1日～ 令和2年8月31日
赤羽 陽子	地域包括支援センター職員	
内藤 敬子	地域有識者	

※ この他に入居者及び入居者家族各1人が構成員として加わっている。